

Shiripaの星

[シリパのほし]

北星学園余市高等学校同窓会誌



蕎麦を通して 消費者とふれ合いたい

一期 青木 一廣



全国各地でご活躍の同窓生そして同級生の皆様
ご無沙汰いたしております。北星余市高校の一期
生として当時の事を思い出して見ますと新設校の
ため校舎もなく沢町小学校の旧校舎を借りての高
校生活のスタートでした。二年生の時に新校舎が
完成いたしました。二生生の時にクラブ活動を
協力し合って汗を流して整地をしてクラブ活動を
した事などが強く思い出されます。学校生活で
色々な出来事が沢山有りましたが、私も含めて見
事なほどの個性派集団で有ったと思っています。今
は良い経験思い出となっております。私は無事に三年
間で卒業させていただき家業で有る農業の四代目

として自然豊かなニセコ羊蹄山の麓でじゃがいも、
そばなどの栽培を行なっています。
近年北海道の農家戸数が4%位になってしまい
農村社会の人口もだんだん減少してしまいさびし
くなっています。その結果、農家と消費者との距離
が離れてしまい、農家としての思いや、食べものの
生産される様子が分から
なくなっているのではないか
とか、消費者の期待に応
えているのかととても不安
になってきました。私が蕎
麦好きであった事はもち
ろんです。たまたま農
家として山間の畑で無農
薬蕎麦の栽培をしていた
り、所有地の中にそば打
ちに適した軟水の名水・
羊蹄山の湧水が有ったり
しましたので、蕎麦を通して消費者とふれ合うた
めに農家のそばや羊蹄山を七年前にオープンいた
しました。蕎麦粉100パーセントの本物の美味
なお蕎麦という事で、春から秋にかけて全国から
行列が出来るほどにたくさんの方が来店して下さ
います。



お客様と畑に出て、そばの種を蒔き、苺り取り
太陽熱で乾燥させ、唐さおで実を取り、そして蕎
麦打ち教室も開いています。
四年前には同じ敷地内にファームレストランじゃ
がいもで美味なコロッケを食べていただいています。



特に春から夏
にかけて雪室
貯蔵の味の濃
いじゃがいも
がコロッケを
より美味にし
ています。ぜ
ひ食べて見て
下さい。

シリパの星
五号で紹介さ
れた田中順也

君が札幌で蕎麦店を始めた事を知りさつそくたず
ねて行き蕎麦談議をする事が出来彼が蕎麦を通じ
てお客様に喜んでいただける様がんばっているのが
良く分かりました。今年彼が私の店に来てくれま
した。羊蹄山の前で農家としての思いを熱心に聞
いていただき又たずねて下さった事を本当にうれ
しく思いました。卒業時の三年C組の担任一戸先
生はじめクラスメイトと毎年交友を深めています。
TVなどで母校のニュースを耳にする時北星余市の
きびしい中にも心あたたまる情熱をいただき、そ
れぞれの時代を精一杯生きた証として今もが
んばれるのかと思っています。

同窓生の皆様、羊蹄の豊かな自然と安心安全な
食をこれからもおとどけたいします。
機会が有りましたらお寄りいただき声をかけて
いただければ幸いです。



農家のそばや
羊蹄山

北海道虻田郡
倶知安町字富士見463-5
TEL.0136-21-2308
<http://www.youteizan.com/>



北星余市高のあらたな発展を祈る

近藤 典彦

この十二月で七十歳になります。今のところ元気に暮らしています。一日の生活は次のようです。五時が六時に起床。午後二時から三時まで仕事(石川啄木伝執筆)。その時間になると頭が回らなくなるので、筋トレのジムへ行きます。筋トレまたは水泳のあと、サウナ、帰宅、晩酌、暇つぶし、寝る。こんな毎日です。ただし火曜日は明治大学へ、水曜日は成城大学へ非常勤講師として出勤しています。



十一月月上旬には石川啄木の歌集『一握の砂』を朝日新聞出版から出しました。啄木自身の手になる『一握の砂』以来の画期的な編集になっています。本屋で手にとってみていただけると幸いです。以上が近況です。

私は北星余市高創立の二年目から九年目まで、八年間働いていました。往時を思えば懐かしいこともが雲のように湧いてきます。

私の赴任当時はご年配の山崎金治郎校長は別格として、最年長が馬場達先生の二十九歳でしたから、みんな青年でした。

「生徒と父母のために」の一点で教師は団結し、活力に満ちた教師集団をつくりあげていました。しんどかったけれども当時は楽しかったです！

以後八年間無限の思い出がひしめいています。幅口校長先生のご指導の下、北星余市高のあらたな発展を祈ります。



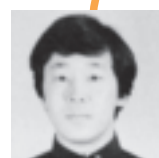
『岩本孝一先生との出会いを通して』

7期 伊藤 賢治

三月中旬、ザクザクに降った雪に足をとられながら母と向った北星余市高校。この学舎が私の人生の基点である。

北星余市で過した三年間は、濃密そのものだった。毎日学校に行く事が楽しく、刺激的で新鮮な驚きの連続だった。それは、多くの心通う仲間恵まれ、多くの教師の方々にも恵まれたからだ。

その中でも岩本孝一先生との出会いは、私の生き方そのものに大きな影響を与えてくれた。また、学校行事を通し、色々なチャンスもいただいた。「こんな事も出来るのだ」と自分でも驚く経験もした。それは、自信につながり、困難な目標であったもそれに立ち向う「根っこの力」に今でもなっている。ただどれをとっても、自分一人の力で出来た事ではなく、支えて下さった方々があつたことだ。



「行動から学べ」「調査せざる者発言権なし」「深く考えよ、これが岩本先生の強調していたことばだ。私の宝物の言葉でもある。」

岩本先生は今、体調を崩され療養中ではあるが、今でも



目標とする大きな存在である事にはいささかも変わりはない。受けた恩は右に刻み、かけた恩は水に流す。そんな愚直な人生を歩みたいと思う。

座談会

昨年の秋、現役生徒達が書いた「しよげん」が出版された。「自分」を赤裸々に綴った本だが、彼らと話してみたいと思い、卒業間近の二月、座談会を開くことにした。

(出席者：後宮君、林田君(三年生) 同窓会役員) 三時間におよぶ会のほんの一部を紹介することにします。

①なぜ、この本を出版しようと思ったのか
後宮：余市の存続が危機にある中、普通の高校で、自分らしく過せる高校があることを、全国で悩んでいる人達に知ってもらいたかった。「と力強く語ってくれた。母校がなくなるのは、イヤでしょう……ねえ。」

②北星に来てよかったことは？
後宮、林田：「一生つき合える友達が出来たこと！ いろんな人と出会えたこと！ 寮生活の影響は大きい」寮に入らないのもつたないよ！ なあ。

「それから、寮や学校、いろんな所でいろんな人と議論できた。これは、絶対役に立つと思うんですけど……先輩どうですか」
こんな調子で昼食をとりながら進んだ。親子ほど年の離れた彼らと語り合った思いは、年月を経ても、根っ子にあるものは一緒だと感じた。

『人』との関係を築き、考え、成長させてもらう。社会人としても、北星余市での経験が生かされ「誇り」となっていける。母校の存続を願う同窓生として、互いに心通う有意義な時間だった。



九州から応援の南風を送りたい

静野 潤一



北星余市の同窓生の皆様、お元気ででしょうか？ 私は七年前に教職を離れ、現在、縁あって九州は小倉で歯科大学に通っております。昔の青年教師は今、中学生をしています。

ありがとうございます。九州に来て右も左も分からない時から現在まで、北星余市の九州父母会の方々と同窓生の皆さんに大変お世話になり、気にかけて頂いています。九州での部屋探しや引越しも同窓生が手伝ってくれました(感謝！)。

形にできたこと

31期 後藤 葵



北星余市の先輩、同期、後輩の皆さんお元気ですか？ 私は元氣です。六年前に大きな事故にあつてしまい、顔が変わってしまつたのですが、今は何もかもから立ち直り、楽しく生きています。がんばつてますよ。

さて、高校の頃から詩を書いて楽しむのが私の日々だったわけですが、去年の二月、ずっと夢だつた詩集を出版致しました。この言葉とこの言葉を組み合わせよう、と考えるのは貴方一人かもしれない。貴方ならではかもしれない。そこに注目して、自分の「書ける幸せ」を大事にしてみました。それが形になったのですから、今、とても幸せです。読んだ方が、ゆつくりと穏やかな時間に浸れるように一生懸命考えて場面場面を切りとりました。その想いが届くといいなあと、

「故郷は遠きにありて思うもの」と言いますが、北星余市や余市町はまさしく、自分にとっては故郷であり、時折二ツカのCMで余市が流れると懐かしさのあまりつい見入つてしまい、あの頃を思い出しながらグラスにウイスキーを注いでしまいます。

また、九州に来てから年に一回の学校説明会には欠かさず参加させてもらつています。北星余市を支える根は日本中に広がつているという事、余市を離れた今、つくづく実感しています。

北星余市の現状は厳しいと伝え聞きますが、どうか北星余市がこの日本中の根からエネルギーを受け、これからも脈々と果実を実らすことを願つてやみません。そして遠く九州から微風ながら応援の南風を送りたいと思つています。



願いを込めて作りました。私の世界が好きなのもこの広い世界、きつといはるはず。そうイメージして作らせていただきました。皆さんも興味がありましたら、ぜひ読んでください。欲しい方は、〇一八―八三―五七三九(夜七時から十時まで)ご連絡下さい。住所はテ〇一〇―一四三―秋田県秋田市仁井田二ツ屋二丁目四一七です。

北星余市での伸び伸びとした時間があつたおかげで、こんな大人になりました。自分を大切にすることを、大切にしたい上で周りとながつていく事を余市では学びました。これからもその事を基本にがんばつていきたいです。全ては「個」から「一人」から始まり、いかなる「一人」になるかを決めるのは「己自身」である。好きな言葉です。皆さん、自分がどんな「一人」になれるか、意識して楽しんで生きていきましょう。



発行 2007年2月1日
著者 後藤 葵
発行所 株式会社文芸社ビジュアルアート
定価 本体952円+税

座談会に参加して

41期 後宮 嗣

初めまして。今年の春、同窓生になりました。第41期後宮嗣という者です。私は以前在学校中に同窓会長並びに副会長の皆様と話し合う機会をいただきました。その中で注目された点はやはり「生徒数の減少」というものでした。これは現役の方だけの問題ではないのです。今こそ我々同窓生が一つになり北星余市に恩を返すべきではないでしょうか。今の皆さんがいる、その背景には確実に北星余市の姿が浮かんでくるはず。私は「北星余市は日本国にとつて必要な学校である。」と思います。大げさだと思つているかもしれませんが、私は本当にそう感じています。

北星余市という道がなくなることは、多くの子供が路頭に迷う事になります。我々の力でこの時代を生きる子供たちに北星余市という選択肢を与えてあげようではありませんか。なぜなら、我々の母屋を子供たちが必要としているからです。



校長就任あいさつ

幅口 和夫



全国で活躍している同窓生の皆さん、本年度から校長に選任された幅口です。ここ数年、目まぐるしく校長が変わり、更に幅口が校長になるとは誰も考えていなかったことでしょう。当人が最もその様に考えています。やむにやまれぬ状況の中でこの様になり心の準備のないまま校長に就任した訳です。そして、武村先生も退職一年前にもかかわらず教頭を担っています。更に、吉田・加藤両先生も今年度で退職です。しかし、そんな愚痴を言っていないで、

る状況ではないのです。実はこの十年間で少しずつ生徒が減少してきて、今年度は二百七十人を切るころまで来ましたが、最盛期の六〇パーセント減です。そしてこの状態が続くならば学校を続けることができないかもあるかもしれません。この様な状況の中で校長の激務が続く、次々に代わらざるを得なかつたのです。じゃあ幅口はと言いますと、知っての通り、打たれ強い上に心臓が「強い」ので何とか頑張っています。

生徒が減少してきた原因は、はきりしているのです。それは、通信制の高校が全国に乱立し、そこに手軽に入学できるからなのです。しかし現実には、入学しても多くはただ在籍しているだけで、四割の生徒は全く単位を取得できていないのです。ただ在学しているだけです。更に重要な事は、通信制の高校では、高校時代に人間関係を作り、友達を作ることができないのです。十代後半のこの時期に友人を作るといことは、

同窓会は最大の広告塔

全国で開催される本校の教育相談会。今年もたくさんのお見えになり、本校の様子を語ってくださいました。北星余市で経験したまさしく「生の声」が、受験を考えている本人や親御さんの心に間違いなく響いています。

少子化や全国的に乱立する通信制や単位制高校の影響を受け、最盛期には十七クラスあった本校も、今や九クラスとなってしまいました。受験生の減少に歯止めをかけるための生徒募集を必死に行っており、

本校ではここ数年、生徒募集用に手作りの学校紹介DVDを作成しています。ラベルも編集もタビングも、教員が手分けして行っているこのDVD。希望者には無料で送付しております。お知り合いの中に、進路先で悩んでおられる方がおられましたら、ぜひこの学校紹介DVDをお渡ししたければと思います。もちろん、ご自身が懐かしい余市の空気を感ずるためのご請求でもかまいません。HPから簡単に送付請求が出来ますので、どうぞお気軽にお申し込みください。

人とかかわりの中で成長し、集団の中で生きる力を養うことが出来る全日制普通科である本校を、ぜひ全国にご紹介していただきたいと願っております。

入試担当 玉村



同窓会員奨学金について

母校の教育活動を支援するという同窓会の目的実現のため、会員の子供が北星余市へ在学中、希望した場合は月五千元を支給します。十月三十日現在、六人が該当しています。

社会の中で生きていくための社会性を身につけるうえでも重要なことなのです。通信制高校では、制度上そのような体制になっていません。現在、多くの若者が社会に出てから、その事に気づき悩んでいるのです。本校では皆さんが存じのように、クラス集団の仲間づくりに力を入れています。その事が社会に出てからも重要だと考えているからです。この様に、本校のような学校は残念ながら日本の中で多くはありません。本校のような教育理念を持った高校は今だからこそ必要になっています。

同窓生の皆さん、身近に不登校生・中退生や通信に通っている生徒がいましたら是非本校のことを語ってください。幅口も全力で頑張っていますのでよろしくお願いたします。



12期田中央一さんの娘 美紀さん(2年)
8期寺嶋昭さんの娘 めくみさん(2年)
6期空保泰司さんの娘 まゆみさん(2年)
18期神野(旧 徳永)かおりさんの娘 ありさん(1年)
16期金澤(旧 藤田)智美さんの息子 正也くん(2年)
13期安在(旧 佐藤)裕子さんの娘 美咲さん(2年)

編集後記

《今年出会った後輩たちへ》
*「しょげんな」の執筆者・後宮君と林田君へ
お元気ですか？ 2月の時(交流会)はありがとうございました。かなり無理な日程でおまけにすごい吹雪の日だったのに、雪をかぶりながらも来てくれて嬉しかったです。大学生活はどうですか？ 何よりきちんとご飯は食べていますか？
楽しい以上に大変なことも多いと予想されますがそれも大切な経験です。いつかそれを必ずプラスにできる時がくるのでしよう。2人にはそんなパワーを感じます。
*原稿依頼を受けてくれた後藤葵さんへ
実はあなたにお手紙を出すことは大変勇

気がいることでした。だからあなたから電話をもらいあなたの気持ちを聞いた時、ものすごく嬉しくてすぐに山先生に報告しました。山先生もとても喜んでくれたんですよ。人生ってなかなか平々凡々にいかないものですね。でもその分「強さ」を手に入れたりするから、結局は「悪くない」と思えるのですね。あなたとお話をして改めてそう感じました。
ともあれ、何よりも「健康第一」です。3人とともにくれも身体だけは大切にしてくださいね。
では、少し早いですが良いお年をお迎え下さい。(え)

Shiripaの星 Vol.8
2008年12月10日発行

顧問 塚原 治
編集長 松村 悦子(15期)
副編集長 松浦 一法(12期)
編集委員 安藤 栄子(1期)
本間美智子(5期)
馬場 希 (12期)
平野満寿美(14期)

【発行】
北星学園余市高等学校同窓会「Shiripaの星」編集委員会
〒046-0003 余市郡余市町黒川町96番地
TEL(0135)23-2165 FAX(0135)22-6097
URL <http://www.hokusei-y-h.ed.jp/>

計 報	
一五期	二〇〇八年一月より
二期	二七期 沖津
三期	大津 淳
四期	小笠原千里
五期	九月
六期	二月

同窓会で把握している分です